海の女神・トヨタマヒメ

【日本神話】 海幸山幸

兄・海幸彦（うみさちひこ）は海の漁師、弟・山幸彦（やまさちひこ）は山の猟師です。ある日、弟の要望で、弓矢と釣竿を交換して猟・漁を行いますが、山幸彦は兄の大事な釣針を無くしてしまいます。兄に責められた山幸彦は、釣針を探す旅に出て、潮の神シオツチの案内で海底の海宮（わたつみのみや）に辿りつき、そこで大海神の娘・豊玉姫（トヨタマヒメ）と結ばれます。大海神の力を借りて釣り針を見つけた山幸彦は地上に戻り、豊玉姫の助力を得て兄を屈服させます。

この後、豊玉姫は出産のため山幸彦のもとを訪れ、「海神の一族である自分は、出産の際に本来の姿に戻ってしまうので、決して覗かないように」と伝えます。山幸彦が産屋を覗くと、巨大なワニ（鮫）あるいは竜の姿に戻った豊玉姫が出産の苦しみでのたうちまわっていました。

約束を破られ、恥じた豊玉姫は子神ウガヤフキアエズ（以下ウガヤと省略）を置いて海宮へ帰り、通路を閉ざしてしまいますが、夫と子を忘れられず、妹の玉依姫（タマヨリヒメ）を乳母として送ります。ウガヤは、叔母・乳母である玉依姫と結ばれ、初代天皇となるカムヤマトイワレビコ（神武天皇）が誕生する場面で、古事記の上巻（神話編）は終わります。

【対馬の伝承】

対馬の伝承では、釣針を探す旅の途中、山幸彦がまずたどり着いたのが美津島町鴨居瀬（かもいせ）で、しばらく隠れ住んだのが同町濃部（のぶ）とされています。濃部には、潜（しのぶ）の里＝濃部という地名伝承があり、集落奥にある天神神社（番号48）には山幸彦が祭られています。

山幸彦と豊玉姫の出逢いの場は豊玉町仁位の和多都美神社（番号63）で、子神であるウガヤが誕生したのは鴨居瀬。豊玉町千尋藻の六御前神社（番号78）にはウガヤと6人の乳母が祭られています。

上記の地域を並べると、鴨居瀬（放浪）→濃部（隠棲）→仁位（出逢い）→鴨居瀬（子の誕生）→千尋藻（子の養育）となり、山幸彦の人生を辿るように神社が点在していることに気づきます。

また、兄の海幸彦は九州南部（鹿児島・宮崎）の隼人（はやと）の祖先とされており、対馬をふくめた九州北部の海洋民が信仰していたのが海神・豊玉姫だとすると、天皇家の祖先である山幸彦の一族と、九州北部の海洋民が手を結び、九州南部の隼人勢力を征服したという歴史物語が見えてきます。

山幸彦と豊玉姫の別離の物語は、力をあわせて九州を平定した2つの部族の間で、なんらかの抗争が発生したことを暗示しているのかもしれません。孫にあたるカムヤマトイワレビコは東征を行い、磐余（奈良県）で、初代天皇・神武天皇として即位することになります。